

## 平成25年度教育事業「第34期はなやまボランティアスクール」

### 1 趣旨

ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行うとともに、体験活動の指導者や支援者としての技術とボランティア活動に積極的に取り組む意欲を高める。

### 2 目標

- 青少年教育施設におけるボランティアの役割とボランティア活動について理解する。
- 自然体験活動の指導方法や救命救急法と安全管理などボランティアとしてすぐに生かせる知識や技術を習得する。
- 参加者や先輩ボランティアとのふれあいを通して、ボランティアとしての意欲を高め、研修終了後ボランティアとして活動する。

### 3 主催

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

### 4 期日

平成25年4月27日（土）～4月29日（月・祝）【2泊3日】

### 5 場所

国立花山青少年自然の家 及び 施設周辺フィールド

### 6 参加対象と人数

高校生以上のボランティア活動を志す方（一般成人・学生・高校生） 20名

### 7 参加状況

	宮城県		岩手県		計
	男	女	男	女	
高校生	1	2	0	0	3
学生	5	5	1	2	13
一般	0	1	0	0	1
計	6	8	1	2	17

#### 【参加者所属高校・大学・専門学校】

- ・宮城県岩ヶ崎高等学校
- ・宮城県多賀城高等学校
- ・東北学院大学
- ・東北福祉大学
- ・盛岡大学
- ・東北文化学園大学
- ・東京IT会計専門学校仙台校

8 日程

	4月27日(土)	4月28日(日)	4月29日(月・祝)
午前		朝のつどい 7:15～7:30  <講義Ⅲ> 9:00～10:30 「ボランティア活動の意義」 <講義Ⅳ> 10:30～12:00 「青少年教育施設における ボランティア活動の理解」 [講師] NPO 法人 野外遊び喜び総合研究所 代表 中嶋 信 氏	朝のつどい 7:15～7:30  [実習Ⅳ] 9:00～12:00 「救命救急法」 [講師] 栗原消防署西出張所 救急救命士 狩野 一弘 氏  救急係員 石川 雄大 氏
午後	受付 14:00 開講式 14:30  <講義Ⅰ> 14:40～15:30 「青少年教育施設の 現状と運営」 [講師] 国立花山青少年自然の家 次長 山川 忠彦  [実習Ⅰ] 16:00～17:00 HABプログラム① 「アイスブレイク」 [実習指導] NPO 法人 野外遊び喜び総合研究所 代表 中嶋 信 氏	[実習Ⅱ] 12:30～15:30 HABプログラム② 「野外活動エリアを知ろう」 (スコアオリエンテーリング) [実習指導] 国立花山青少年自然の家 職員  [実習Ⅲ-1] 16:00～19:00 HABプログラム③ 「環境に配慮した野外炊飯」 (自然にやさしいホットサン ド&ポトフづくり) [実習指導] 国立花山青少年自然の家 職員	ボランティアが関わる事業説明 とボランティア登録について 13:00～14:30 ・H25 事業説明 ・ボランティア登録の説明 ・登録用紙、調査票、アンケー トの記入  修了証授与・閉講式 14:30
夜	<講義Ⅱ> 19:00～20:30 「青少年教育の理解」 [講師] NPO 法人 野外遊び喜び総合研究所 代表 中嶋 信 氏	[実習Ⅲ-2] 19:00～20:30 HABプログラム③ 「エコキャンプファイヤー体 験&先輩ボランティアとの交 流会」(キャンプファイヤーの 実際と火を囲んでの交流) [実習指導] 国立花山青少年自然の家 職員	

## 9 実施状況

### (1) 企画のポイント

- ・教育事業等での参加者支援を主な目的としたボランティア育成を図るため、高等学校や大学等へ参加を積極的に呼びかけた。また、社会教育実習を兼ねた授業の一環として学生が参加できるよう大学等との連携を、継続して進めた。
- ・本事業終了後に、年間を通して教育事業等における子どもたちに対する支援を中心としたボランティア活動に参画できるよう実践的な内容のプログラムで構成し、参加者が多くの学びを得て今後活かせるように工夫し事業を展開した。
- ・今年度も引き続きメーリングリストを活用し、登録ボランティアとの連携強化を図った。

### (2) 運営のポイント

- ・これまで数多く子どもたちとの自然体験活動に取り組んできている中嶋氏を今年度も講師に招き、アイスブレイクとグループワークを取り入れた講義を行った。また、救命救急法では栗原市消防本部警防課に講師を依頼し、野外活動時における緊急時に備えた実習を実施した。
- ・今年度は、昨年度の本事業経験者であり、その後の様々な事業で活躍してきた第33期ボランティアからの協力を得てスタッフを増員することで、特にグループごとの活動時における参加者の支援や安全管理の面で十分な体制をとって運営した。また、プログラムの中に参加者と先輩ボランティアとが交流できる時間を組み込み、つながりをつくる場や機会を設定した。
- ・それぞれの講義や実習によって内容が異なるが、各プログラムの関連性（連続性）を考え、つながりをもたせたプログラムを意識した。また、食事や入浴、睡眠など十分な時間を確保することで、参加者がゆとりをもって期間中を過ごしながら講義や実習に集中して活動できるよう配慮し運営した。

### (3) 安全管理のポイント

- ・朝のつどいや食事などの時間を利用して、スタッフによる体調チェックを行うなど、参加者の体調管理に努めた。
- ・オリエンテーリングでは各参加者グループにスタッフを配置し、活動の際に危険箇所や注意するポイントについて声かけをするなど、安全管理を徹底した。
- ・キャンプファイヤーでは、翌朝の後片付けを参加者自身が行うことで、火気に対する安全への意識を高めた。

#### (4) 実施状況

##### 【1日目】◇開講式



17名の参加者を迎えて始まった開講式



宮田所長からの主催者代表あいさつ

##### ◇<講義 I> 「青少年教育施設の現状と運営」



山川次長による講義の様子



資料を手に真剣に講義を受ける参加者

##### ◇ [実習 I] HAB体験プログラム①「アイスブレイク」



講師の中嶋氏によるアイスブレイク



緊張もほぐれ信頼関係が築かれていく

◇ <講義Ⅰ> 「青少年教育の理解」



豊かな経験と実践に基づいた中嶋氏の講義



ボランティアについてグループワーク

【2日目】

◇朝のつどい



7:15 からの朝のつどいに全員で参加



司会と旗の掲揚係を自分たちで分担

◇<講義Ⅱ> 「ボランティア活動の意義」



資料やデータから課題を読み取る



ワークショップで合意形成

◇<講義Ⅲ>「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解」



ねらいや目的を絞って実際に事業を企画



グループごとに発表しシェアしあう

◇ [実習Ⅱ] HAB体験プログラム②「野外活動エリアを知ろう」



グループでスコアOLに取り組む



沢の水を沸かして昼食をとるミッション

◇ [実習Ⅲ-1] HAB体験プログラム③「環境に配慮した野外炊飯」



グループで残菜を少なくする方法を工夫



最後に発表でお互いの取り組みをシェア

◇ [実習Ⅲ-2] HAB体験プログラム③「エコキャンプファイヤー&先輩ボランティアとの交流会」(キャンプファイヤーの実際と火を囲んでの交流)



少ない薪でのキャンプファイヤーを体験



先輩ボランティアと火を囲んでの交流

【3日目】

◇ [実習Ⅳ]「救命救急法」



映像を見ながら心肺蘇生を実践



AEDの使用手順についての指導

◇修了証授与・閉講式



宮田所長から参加者代表へ修了証の授与



参加者には事業等での活躍が期待される

## 10 成果と課題

### (1) アンケートの結果

#### ①参加者の満足度（アンケート回収率 100.0%）

単位：%

設 問 事 項	満 足	やや満足	やや不満	不 満
事業全体をとおしてはどうでしたか。	88.2	11.8	0.0	0.0
事業のプログラムはどうでしたか。	88.2	11.8	0.0	0.0
事業の運営はどうでしたか。	82.4	17.6	0.0	0.0
職員の指導・助言はどうでしたか。	82.4	17.6	0.0	0.0
ボランティアの対応や指導・助言はいかがでしたか。	76.5	23.5	0.0	0.0

参加者 17 名に対して事業後に行ったアンケート調査の集計結果は、表のとおりであった。

5 つの項目全てにおいて、「満足」が高い割合を占め、「不満」の項目の回答は皆無であったため、この事業は概ね好評であったといえる。

#### ②自由記述

- ・ボランティアやグループワークというものをより身近に体感することができ、また、他大学の学生と一緒に行動することで色々な意見が聞けて、良い刺激になりました。（20代男性）
- ・2泊3日があつという間でした。楽しかったし勉強になりました。（40代女性）
- ・講義の内容など、実践的なものが多くとてもためになりました。もし良かったら、このボランティアスクールを年2回ぐらい開催して、もっとボランティアをする人が増えたらいいんじゃないかと思いました。（10代女性）
- ・疲労もあったがとても充実した3日間になった。ボランティアへの興味が深まったし、施設なども充実していて満足した。スタッフの指導・助言はわかりやすかったし、ボランティアはとても親切な対応だった。自分たちで考えるプログラムなどもあり、良い体験になった。（10代男性）
- ・ボランティアに対する考え方ががらりと変わった。見方や観点がいろいろあって、学ぶことが多くとてもためになった。一つ一つ丁寧に教えてくださり、初めてでしたが、とても色々なことを身につけることができ良かった。職員の方々はフレンドリーで接しやすく、何でも教えてくれてうれしかったし、なかなか自分から聞きにいけなかったときなどには、ボランティアの方々から声かけしてもらえてホッとしました。とても楽しかったです。（10代女性）
- ・ボランティアのことも学べて、様々な体験ができて充実したものだだった。親切で親しみのあるアドバイスをいただいた。キャンプネームのことや、自然の家についても、詳しく教えてもらえたら嬉しかったです。（20代女性）
- ・雰囲気がフレンドリーで親しみやすい環境で良かったです。スムーズで、時間に余裕をもって気持ち良く、のびのびと活動できましたが、あと少しだけ先輩

や友人と話す時間を増やしてほしかったです。中嶋さんのお話は、納得できる内容で勉強になりました。グループワークでは、話に行き詰ったときに「例えば・・・」など、ボランティアの皆さんが進め方を導いてくれてやりやすかったです。自分たちで考えることができたり、オリエンテーリングなどの活動を通してとても協力できる班に成長できたりと、参考にしたいことがたくさんありました。ありがとうございました。(10代女性)

- ・あつという間で、大変充実した3日間でした。職員には、質問に対して親切に教えていただきました。キャンプファイヤーの時間がもっとほしいです。

(20代男性)

- ・ボランティアのあるべき姿がわかり、自分のすべきこともわかった。職員やボランティアの指導・助言は非常に的確で、学ぶことが多かった。

(10代男性)

- ・勉強になった上に、とても楽しく2泊3日を過ごすことができました。色々な視点から助言していただいて、とてもためになりました。様々な人の様々な意見に触れて、今までの思い込みを新しく違う視点から見て、柔軟に考えていくことが以前より出来るようになりました。

(10代女性)

- ・ボランティアはとても優しく指導してくださり、不安もあったのですが心強かったです。自分が考えていたよりも、ずっと本格的で楽しく、ためになる事業でした。ここから、もっとボランティアについて考えを深めていきたいです。

(10代女性)

- ・自分が企画する立場にこれからなるので、とても勉強になりました。全ての職員さんが優しくステキでした。また、先輩ボランティアのみなさんのおかげで楽しいセミナーになりました。3日間ありがとうございました。これまで体験していなかったことや学校では得られない楽しさを感じました。私はまだまだ未熟で、ボランティアとしてのスキルが少ないですが、花山にまた参加したいと思いました。

(10代女性)

- ・先輩ボランティアが、グループワークの時に発言のきっかけをつくってくれたので話しやすかった。講師の信先生ともっと話す機会があればよかった。職員や先輩ボランティアとも話したかった。

(10代男性)

- ・とても勉強になり、楽しかったです。今回学んだことを、私がやっているボランティアにも活かしていきたいと思います。

(20代男性)

- ・充実したプログラムでした。初めてで不安な部分もありましたが、スタッフなど皆さん親切で、楽しくたくさん学ぶことができた充実した2泊3日でした。

(10代女性)

## (2) 成果

- ・昨年度の反省から今年度は20名に変更して参加者を募集したところ、今回17名の参加となったが、スタッフの体制や実践的な活動プログラムの内容等を考えると、適正な人数であったのではないかと考える。
- ・広報の効果があり、高校生を含め幅広い参加者が集まった。次年度以降も広報を積極的に行い、人材の確保に努めていきたい。
- ・今回、協力スタッフとして第33期ボランティアに参画してもらったことで、職

員のみでは手薄な部分、特にグループごとの活動時における参加者の安全管理面で、十分な体制をとって運営することができた。また、第33期ボランティア自身にとっても、一年を振り返りながら改めてボランティアについて考える良い機会となったようである。次年度以降も、前年度の登録ボランティアから協力が得られるよう、今後も職員とボランティアとの連携を深めていくことが重要である。

- ・スコアOLや野外炊飯など、チームビルディングのきっかけとなったりグループごとに工夫できるような内容であったりと、非常に良いプログラムであった。ただ、今後ボランティアとして事業に関わっていく場合のことを考え、館内や周辺について知る活動（ココどこOL、ソトどこOLなど）や物品が保管されている場所を知る活動などをプログラムの中に組み込むことを検討していくことが必要である。

### (3) 課題

- ・参加者同士の緊張感を早い段階で和らげ、参加者にとって取り組みやすく良い雰囲気の中でその後の活動を進めるためにも、昨年度のように講義の前にアイスブレイクやPAなど、参加者同士が交流できるプログラムを設定できないか検討していく。
- ・タイムスケジュール等、参加者へのインフォメーションが不足していた部分があったため、ホワイトボードを活用するなど改善を図る。
- ・今年度時間が短めになってしまった参加者と先輩ボランティアとの交流は、参加者にとっても先輩ボランティアにとってもつながりをつくる重要な時間であるため、十分な時間の確保が必要である。
- ・今後、メーリングリストを活用した事業等の伝達システムにより、登録したボランティアがより多くの事業や研修等に参加できるようにしていくとともに、ボランティアが自分たちで事業を企画し運営するなど、自主的・積極的なボランティアの参画を促進していく。

